

1. 日本ヘルスケア学会 年次総会 ポスターセッションに出展**「誰も知らない配置の世界」から見えること****2. 配置薬の現在、過去、未来がまるわかり！****「配置薬ニッポン総ケア計画」の出版について**

発行：日本置き薬協会 事務局

1. ポスターセッションに出展 「誰も知らない配置の世界から」見えること

開催二日目午後1時から一時間弱、上記タイトルを掲げるポスターの前に筆者が立ち、数名の方に質問を受け、対応させて頂いた。内二名の方からは調剤報酬額の先細りを踏まえ、訪問調剤の配置業への進出の可否、調剤業と配置業の協業化などの現状などを問われた。

法的にも整備され生活者にも十分に認識されている医薬品配置販売だが、現在と将来の「ヘルスケア」全体の中で、その存在と機能、現状と実態を「ヘルスケア」関係者にご理解頂くべく、継続的な出展に取り組まねばと思う次第。

2. 「配置薬ニッポン総ケア計画」の出版について

上記のように知られているようで知られていない配置業界だが、業界をテーマとした本がない事も一因である。大手配置販社の人材募集にも支障を来しているようで、まさに待ち望まれた本である。「配置薬の未来を考える会」(仮)が執筆、株出版文化社が11月に発行予定の「配置薬ニッポン総ケア計画」(仮)である。A5判、並製、224頁、予価2,000円。

「日本人の健康寿命を延ばす上で、最も重要なのは予防。その担い手として注目される、配置業界。江戸時代に始まり長い歴史を持つ配置薬。先人たちの薬を扱う者としての使命と誇りは、今なお受け継がれている。300年を超える歴史をひもときながら、新たな転換点を迎えるこの業界が、どう未来への布石を打つか、その最前線取材した」と、チラシには記されている。

目次は、序章 ビジュアルで見る配置薬の歴史 第1章 江戸に始まる置き薬

第2章 日本の四大売薬(富山、奈良、滋賀、佐賀)

第3章 配置薬業界を揺るがした3つの大きな波

第4章 ファミリーユースからパーソナルユースへ 第5章 配置薬の今昔

第6章 配置薬業界の「最前線」

コラム ○他業界の配置薬ビジネス活用法 ○業界を支える専門誌 ○配置薬のご当地色

○映画や小説にも出演していた配置薬 ○富山の薬売りの標語

○「置き薬」に変わる新ネーミング

●全国くすりスポット(資料館など)イラストマップ

主な取材先は、三洋薬品、富士薬品、広貫堂、富山めぐみ製薬、日本置き薬協会、日本配置販売業協会、全国配置薬協会、家庭薬新聞社、幸田浩文教授(東洋大学経営学部、賃金人事処遇制度、配置売薬制度等の研究)、福島紀子教授(帝京平成大学薬学部、薬局機能評価学担当)

本件に関するお問合せ先

日本置き薬協会 事務局

〒332-0034 埼玉県川口市並木2-30-6 内外救急薬品内

Tel 080-5514-7511 (有馬) fax 048-251-9657

日 置 協